

平成22年第2四半期 決算説明資料

2009年11月5日(木)

イー・ギャランティ株式会社

eGuarantee

(ジャスダック市場 証券コード:8771)

本資料には、今後の計画や業績の見通し等が含まれておりますが、これらは現時点において入手可能な情報に基づいて設定したものであり、今後の事業を取り巻く環境の変化により、変動することが予想されます。

従いまして、実際の業績等は、これらの見通しとは異なる可能性がございますのでご了承ください。

1. 平成22年3月期 第2四半期業績概要
2. 平成22年3月期の重点的取り組み事項及び進捗状況
3. 参考資料

1. 平成22年3月期 第2四半期業績概要

2. 平成22年3月期の重点的取り組み事項及び進捗状況

3. 参考資料

連結損益計算書

(単位：百万円)

| | H21年3月期 第2四半期 | 構成比 (%) | H22年3月期 第2四半期 | 構成比 (%) | 前年同期比 (%) | 前年 同期比 増減額 | H21年 3月期 |
|--------|------------------|------------|------------------|--------------|--------------|------------------|--------------|
| 売上高 | 1,230 | 100.0 | 1,531 | 100.0 | 124.5 | 301 | 2,703 |
| 売上総利益 | 640 | 52.1 | 759 | 49.6 | 118.6 | 119 | 1,389 |
| 営業利益 | 216 | 17.6 | 280 | 18.3 | 129.5 | 63 | 470 |
| 経常利益 | 223 | 18.1 | 285 | 18.7 | 128.0 | 62 | 482 |
| 四半期純利益 | 126 | 10.3 | 159 | 10.4 | 126.0 | 32 | 272 |

上期の業績は、売上高、利益ともに前年同期と比べて約20%上回りました。不況期においても順調に契約数を増加させており、売上高も堅調に推移し、売上総利益率についても約50%を確保しました。

eGuarantee 平成22年3月期第2四半期 対期初予想比

(単位：百万円)

| | H22年3月期 第2四半期 (期初予想) | H22年3月期 第2四半期 (実績) | 構成比 (%) | 期初予想比 (%) | 増減額 |
|-------|----------------------------|--------------------------|--------------|--------------|-----|
| 売上高 | 1,610 | 1,531 | 100.0 | 95.1 | △78 |
| 営業利益 | 250 | 280 | 18.3 | 112.3 | 30 |
| 経常利益 | 260 | 285 | 18.7 | 109.9 | 25 |
| 当期純利益 | 140 | 159 | 10.4 | 113.9 | 19 |

上期はリスクポートフォリオの入れ替えを進め、新規リスクの受託についても慎重に取り組みつつ、売上を増加させました。また、変動費の増加を抑制したことに伴い、利益については計画を上回る結果となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 資産の部 | H21/ 期末 | 構成比 (%) | H22/ 2Q | 構成比 (%) |
|------|------------|------------|------------|------------|
| 流動資産 | 3,728 | 85.8 | 3,528 | 81.5 |
| 現預金 | 3,314 | 76.2 | 3,178 | 73.4 |
| 前払費用 | 274 | 6.3 | 280 | 6.5 |
| 未収入金 | 83 | 1.9 | 9 | 0.2 |
| その他 | 55 | 1.3 | 59 | 1.4 |
| 固定資産 | 619 | 14.2 | 803 | 18.5 |
| 資産合計 | 4,348 | 100.0 | 4,331 | 100.0 |

| 負債の部 | H21/ 期末 | 構成比 (%) | H22/ 2Q | 構成比 (%) |
|--------|------------|------------|------------|------------|
| 流動負債 | 2,046 | 47.1 | 1,891 | 43.7 |
| 買掛金 | 76 | 1.8 | 89 | 2.1 |
| 未払法人税等 | 184 | 4.2 | 131 | 3.0 |
| 前受金 | 1,650 | 38.0 | 1,536 | 35.5 |
| その他 | 134 | 3.1 | 134 | 3.1 |
| 固定負債 | 40 | 0.9 | 45 | 1.1 |
| 負債合計 | 2,087 | 48.0 | 1,937 | 44.7 |

純資産の部

| | | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 株主資本 | 1,859 | 42.8 | 1,988 | 45.9 |
| 資本金 | 1,048 | 24.1 | 1,048 | 24.2 |
| 資本剰余金 | 458 | 10.5 | 458 | 10.6 |
| 利益剰余金 | 352 | 8.1 | 481 | 11.1 |
| 新株予約権 | 18 | 0.4 | 22 | 0.5 |
| 少数株主持分 | 382 | 8.8 | 381 | 8.8 |
| 純資産合計 | 2,261 | 52.0 | 2,393 | 55.3 |
| 負債純資産合計 | 4,348 | 100.0 | 4,331 | 100.0 |

- ・現預金が前期末と比べ136百万円減少いたしました。
- ・保証履行金の立替金が減少し、未収入金が74百万円減少いたしました。
- ・システムの取得等に伴い、固定資産は185百万円増加しました。
- ・利益剰余金128百万円を積み増したことにより、純資産合計が増加し、2,393百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

| | H21年3月期 第2四半期 | H22年3月期 第2四半期 | 増減額 |
|------------|------------------|------------------|-------|
| 営業活動によるC/F | 229 | 90 | △138 |
| 投資活動によるC/F | △1,649 | 53 | 1,702 |
| 財務活動によるC/F | 389 | △30 | △419 |
| 現金等の増減額 | △1,031 | 113 | 1,144 |
| 現金等の期首残高 | 2,066 | 2,214 | 148 |
| 現金等の期末残高 | 1,034 | 2,328 | 1,293 |

営業CF

増加要因：税金等調整前四半期純利益285百万円及び未収入金の減少74百万円 等

減少要因：法人税等の支払額180百万円、前受金の減少額114百万円 等

投資CF

増加要因：定期預金の純減少額250百万円

減少要因：無形固定資産の取得に伴う支出187百万円 等

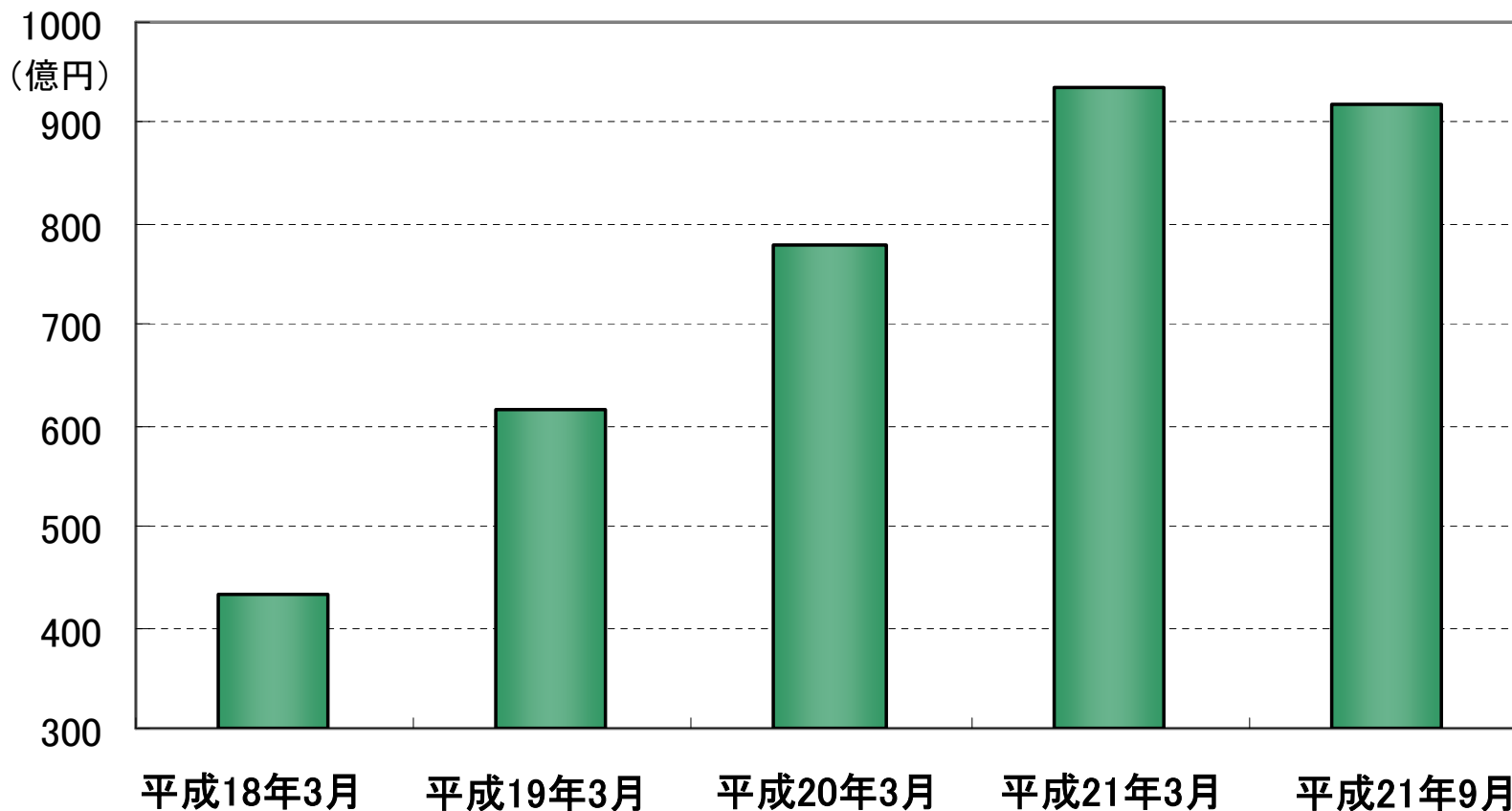
財務CF

減少要因：配当金の支払額29百万円 等

| | H22年3月期 第2四半期 | H22年3月期 (予想) | 進捗率 (%) |
|------------------------|------------------|-----------------|---------|
| 売上高 | 1,531 | 3,560 | 43.0 |
| 営業利益 | 280 | 600 | 46.8 |
| 経常利益 | 285 | 610 | 46.8 |
| 当期(四半期)純利益 | 159 | 330 | 48.3 |
| 1株当たり当期(四半期) 純利益(円) | 7893.96 | 16,336.63 | 48.3 |

下期についても、引き続き変動費の増加を抑制しつつ、新規契約の獲得による売上の拡大を図ります。業績予想は、売上高3,560百万円、経常利益610百万円、当期純利益330百万円から変更はございません。

保証残高の推移



| | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 保証残高金額 | 431億円 | 617億円 | 778億円 | 937億円 | 918億円 |
| 前期からの増減額 | 88億円 | 186億円 | 161億円 | 159億円 | △19億円 |

1. 平成22年3月期 第2四半期業績概要

2. 平成22年3月期の重点的取り組み事項及び進捗状況

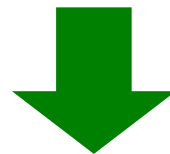
3. 参考資料

平成22年3月期上期のレビュー及び下期の見通し

eGuarantee

上期は、依然として不況が続き、倒産も高水準で推移した。
下期についても、回復の兆しがあるものの不透明な状況が継続。
とりわけ、中堅・中小企業を取り巻く環境は依然として厳しい。

過去の倒産件数の推移から、景気回復時においても倒産件数が
減少するとは限らず、増加する局面もある。



当社保証サービスへの利用ニーズは依然として旺盛であるため、
既存リスクのポートフォリオの入れ替えを行ないながら、
新規リスク引受けのバランスを取りつつ、当社の成長を図る。

不況

経済環境の変化に対応

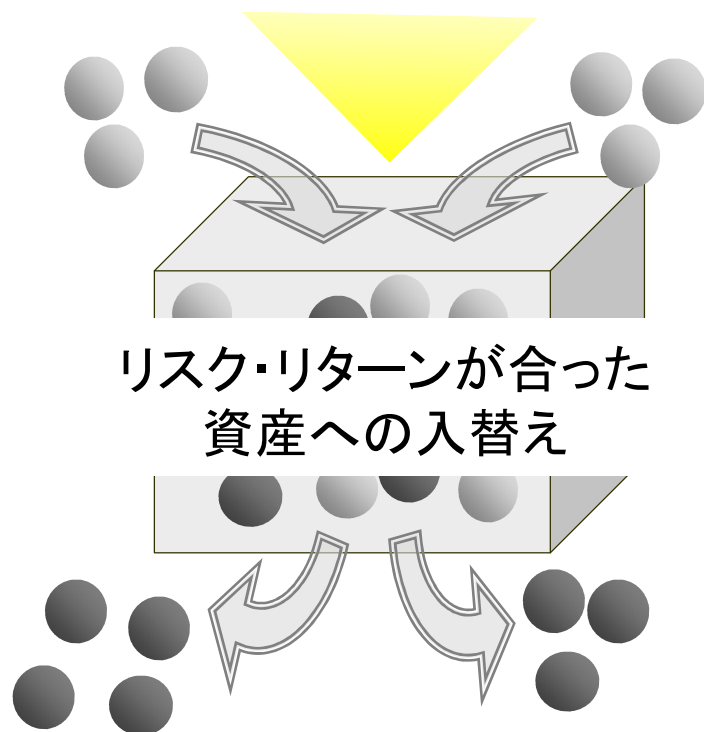
資金調達環境の悪化(一部のノンバンク等の貸し出し姿勢悪化)
企業倒産数の増加と保証ニーズの高まり 等

当社がとるべき戦略

- 1 不況型販売手法へシフト**
～景気後退時にあったニーズへの対応～
～大企業向けサービス展開の強化～
- 2 販売チャネルの拡大**
～既存提携先との関係強化～
～新規販売チャネルの拡大～
- 3 審査の強化**
～情報収集の強化及びデータベースの拡充～
～リスクに応じた価格設定～
～リスク資産(ポートフォリオ)の入替え、優良化～

平成22年3月期上期のポイント

審査力の強化



既存のリスク資産
↓
入替え

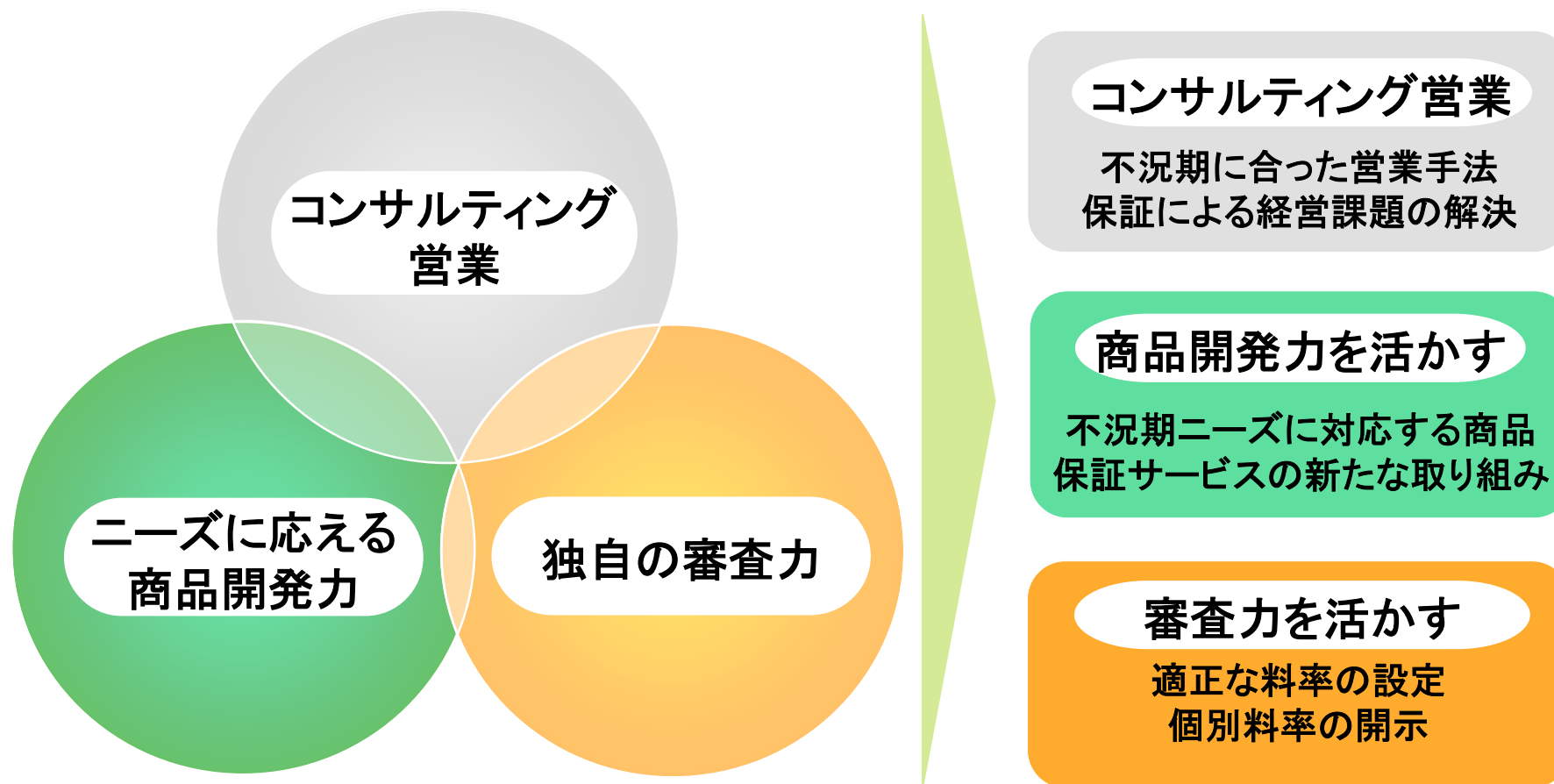


新規リスク受託
↓
慎重な引受け

リスクポートフォリオの優良化達成

既存のリスクポートフォリオの優良化を進めつつ、慎重に新規リスクの受託を行なったことで、リスク資産が優良化し、今後の安定的なリスク受託の基盤を整えました。

1. 不況型販売手法へシフト

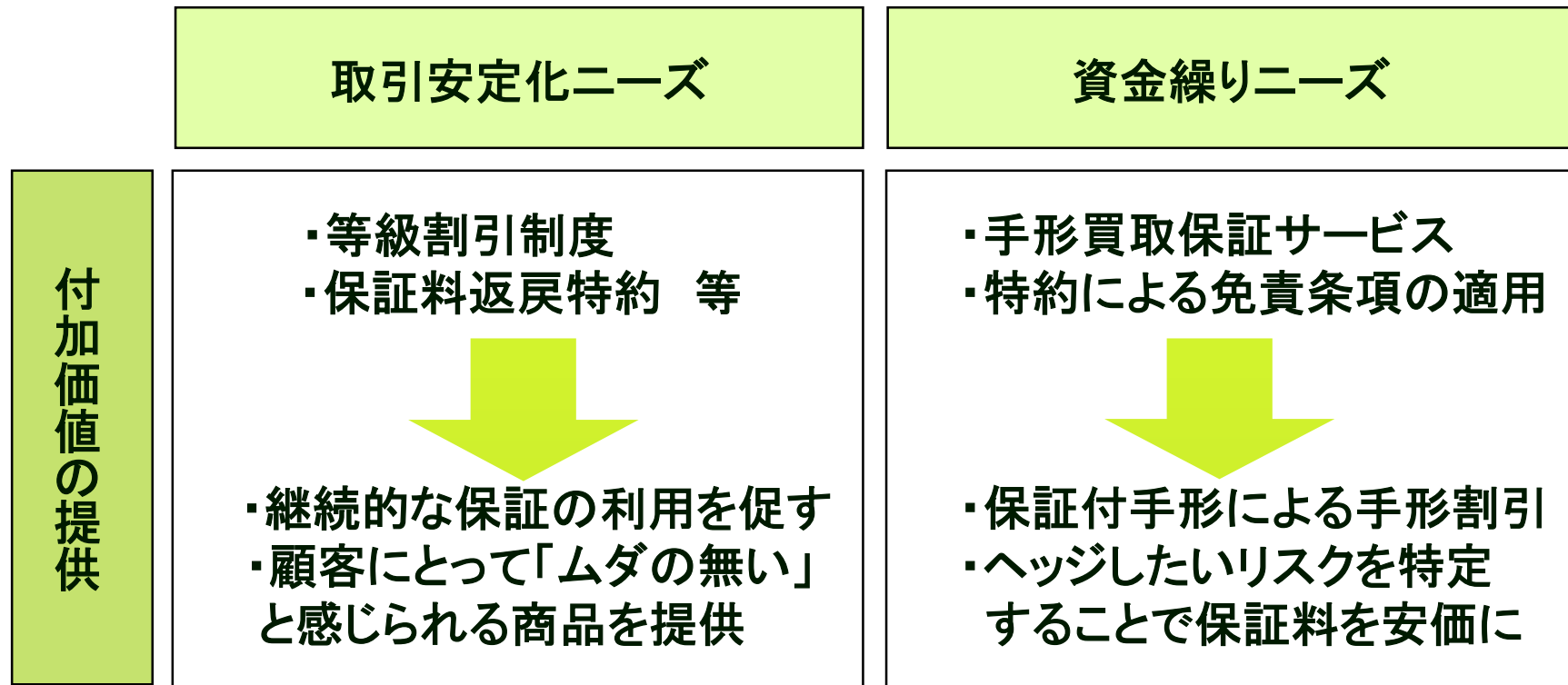


上期は、不況下においても着実な成長を図るべく、新規契約増につながるアプローチを実行いたしました。下期についても、不況型販売手法を強化することで新規契約の増加に取り組めます。

1-1 コンサルティング営業 ニーズに即した営業手法

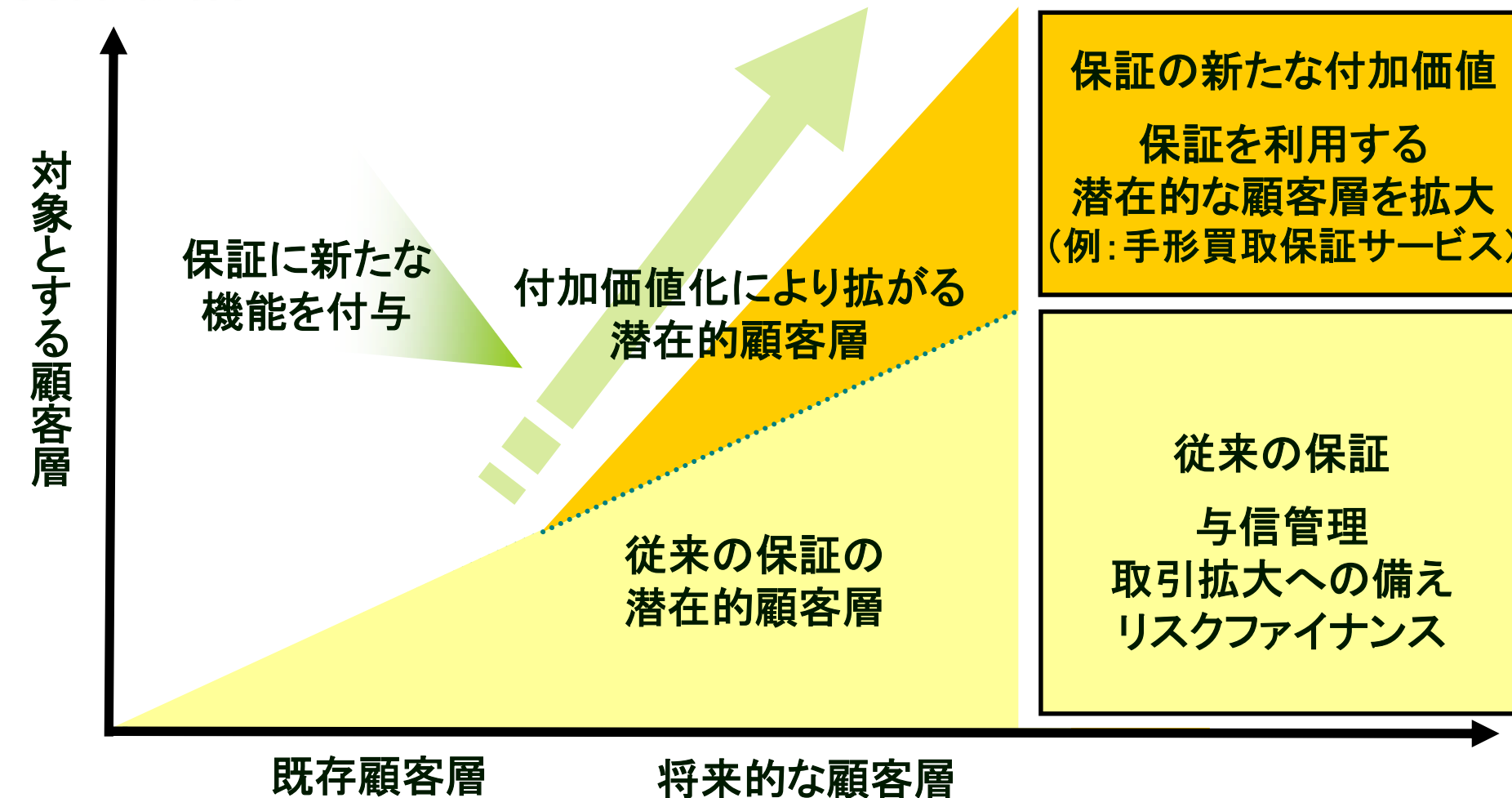
eGuarantee

景気後退期 - 不況期



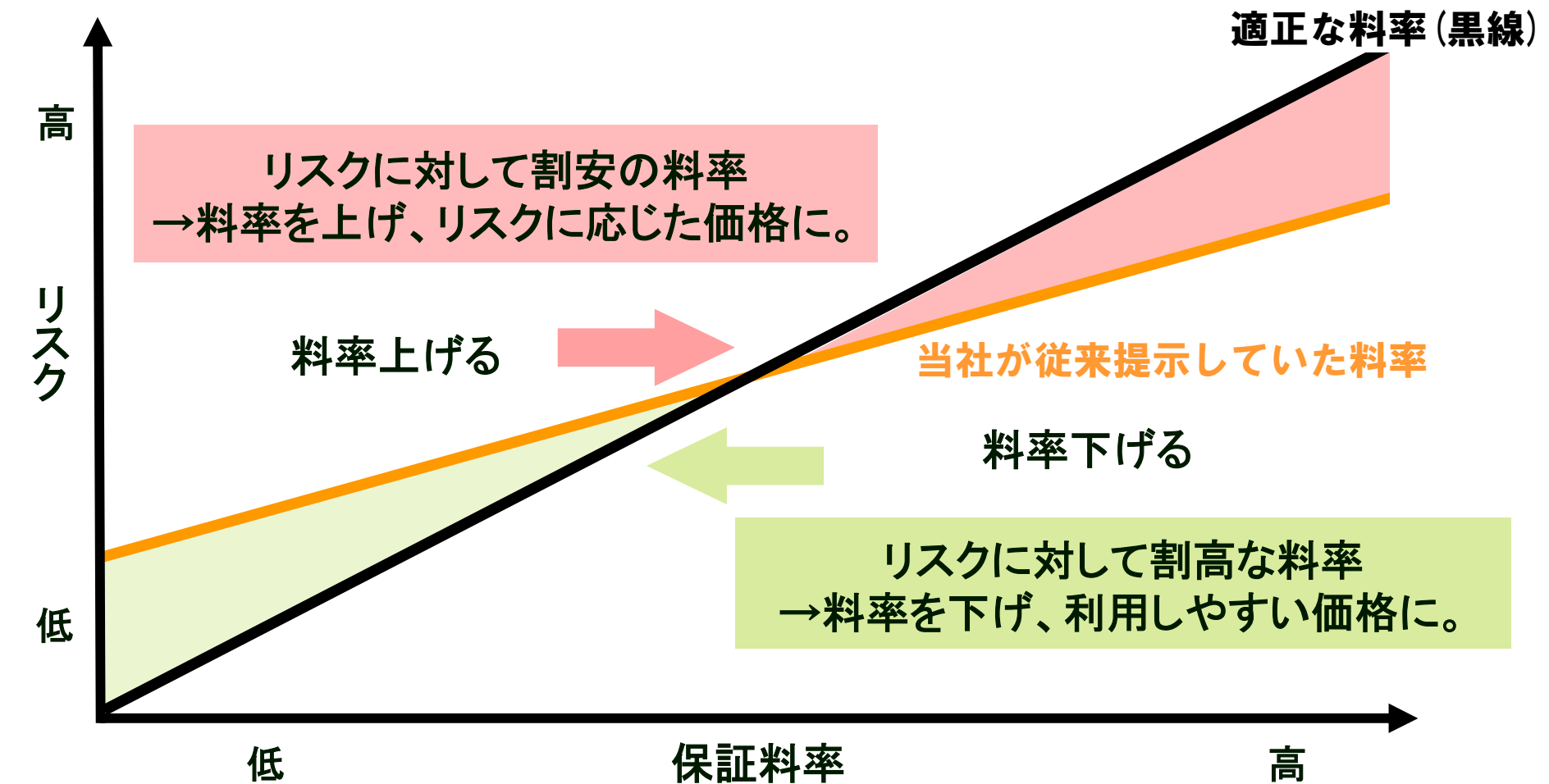
景気局面の変化に合わせ、不況時のニーズをタイムリーに反映した新商品を開発、提供するとともに、保証の新たな付加価値を提供します。また、顧客の経営課題に応える形で商品を提供し、保証サービスの裾野を拡大します。

1-2 商品開発力を活かす 保証の新たな取り組み



リスクヘッジとしての保証の機能にとどまらず、多様な顧客ニーズを満たすサービスを提供することで、対象となる顧客層の可能性を広げ、信用リスクマーケットの裾野拡大を目指します。

1-3 審査力を活かす 適正価格の提示



審査力を通じた適正な料率に基づき、リスク・リターンに見合った料率を設定します。また、料率の個別開示を行なうことで顧客に納得感のある料率を提示し、成約率の向上を図りました。

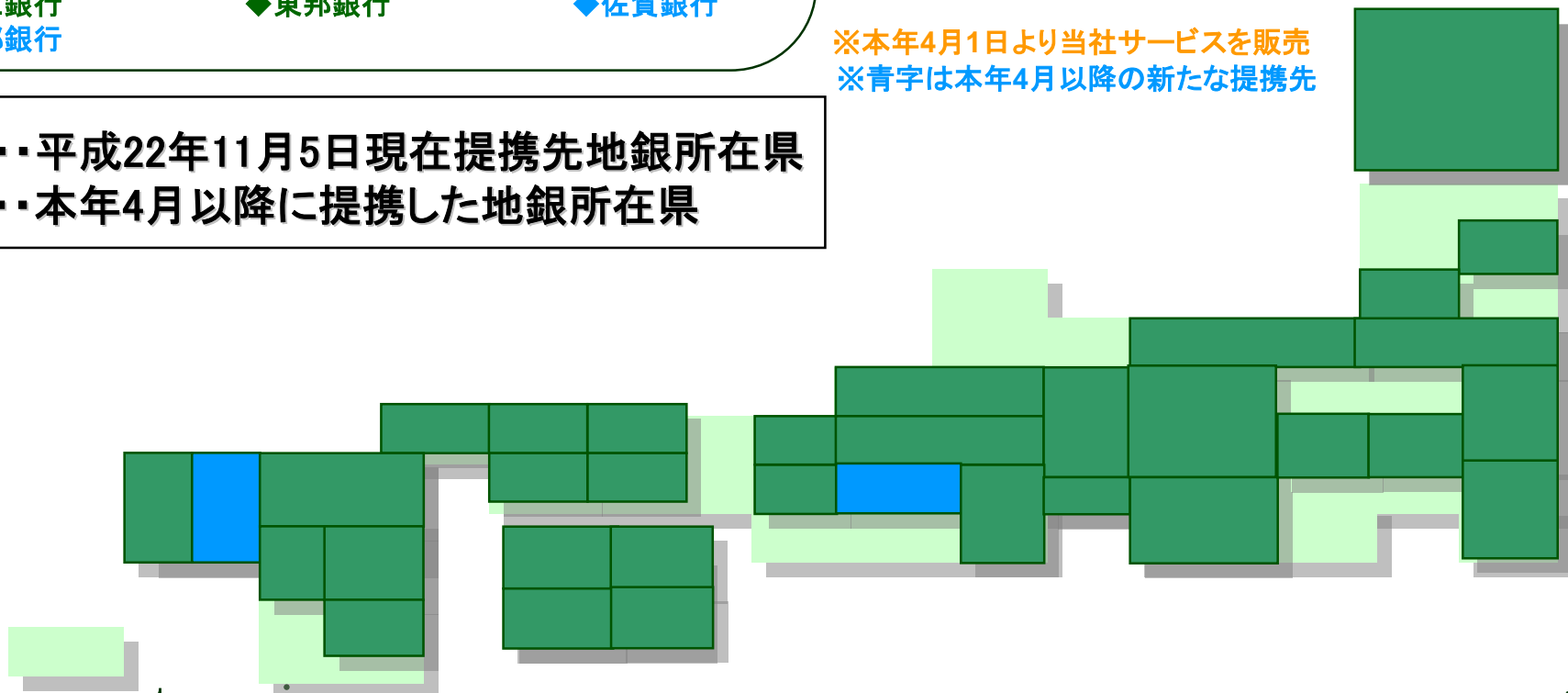
eGuarantee 2. 販売チャネルの拡大 — 今期の新規提携先 —

- 提携先地銀 <敬称略>**
- | | | |
|-----------|---------|---------------|
| ◆阿波銀行 | ◆伊予銀行 | 計 34 行 |
| ◆大分銀行 | ◆大垣共立銀行 | |
| ◆山陰合同銀行 | ◆滋賀銀行 | |
| ◆静岡銀行 | ◆十八銀行 | |
| ◆常陽銀行 | ◆第四銀行 | |
| ◆鳥取銀行 | ◆トマト銀行 | |
| ◆西日本シティ銀行 | ◆八十二銀行 | |
| ◆百十四銀行 | ◆広島銀行 | |
| ◆北海道銀行 | ◆宮崎銀行 | |
| ◆山口銀行 | ◆山梨中央銀行 | |
| ◆百五銀行 | ◆東邦銀行 | |
| ◆南都銀行 | | |

- 地銀以外の主要な提携先 <敬称略>**
- ◆りそな銀行※
 - ◆岡三証券※
 - ◆中央三井信託銀行※
 - ◆いちよし証券
 - ◆三井物産インシュアランス(三井物産グループ)
 - ◆クボタ総合保険サービス(クボタグループ)
 - ◆東京センチュリーリース
 - ◆双日インシュアランス

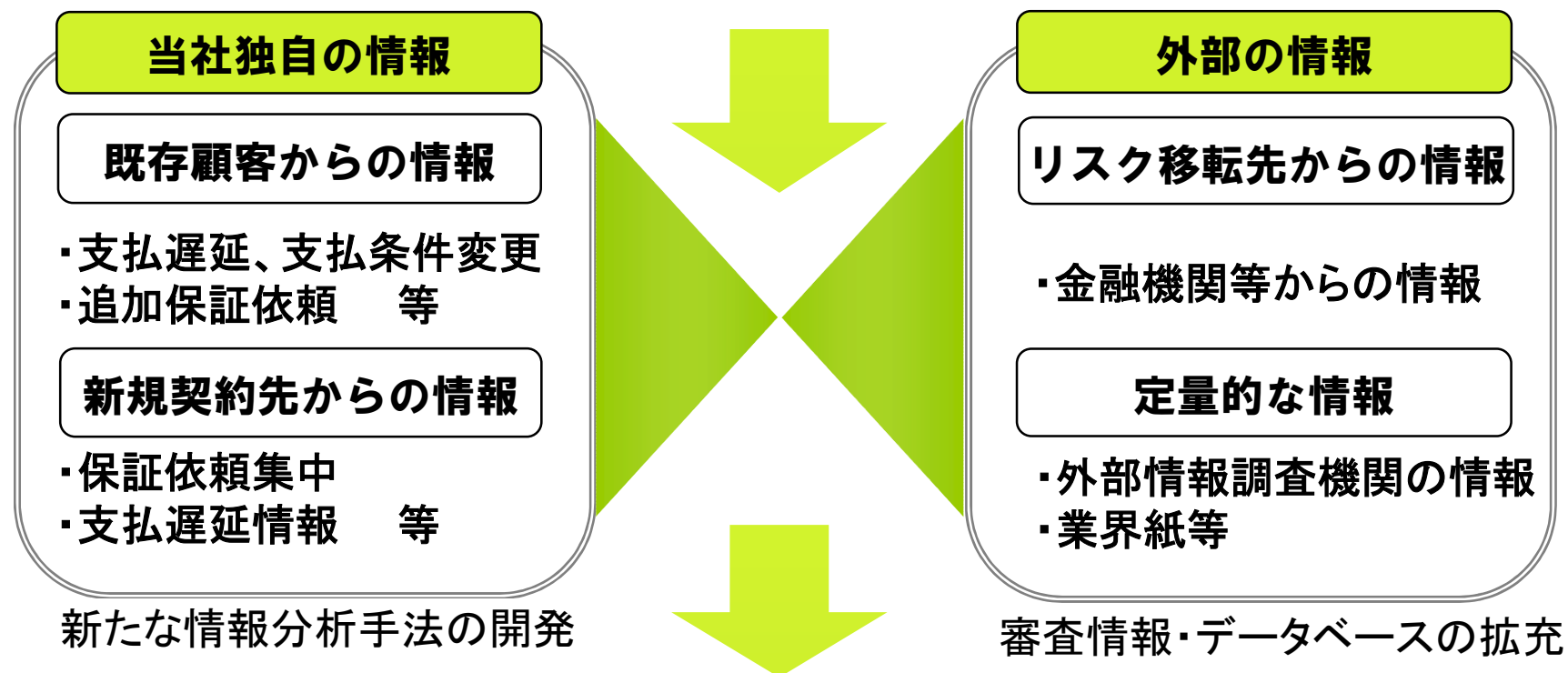
※本年4月1日より当社サービスを販売
 ※青字は本年4月以降の新たな提携先

■・・・平成22年11月5日現在提携先地銀所在県
 ■・・・本年4月以降に提携した地銀所在県



3. 審査力の強化

問合せ数の増加・顧客数の増加



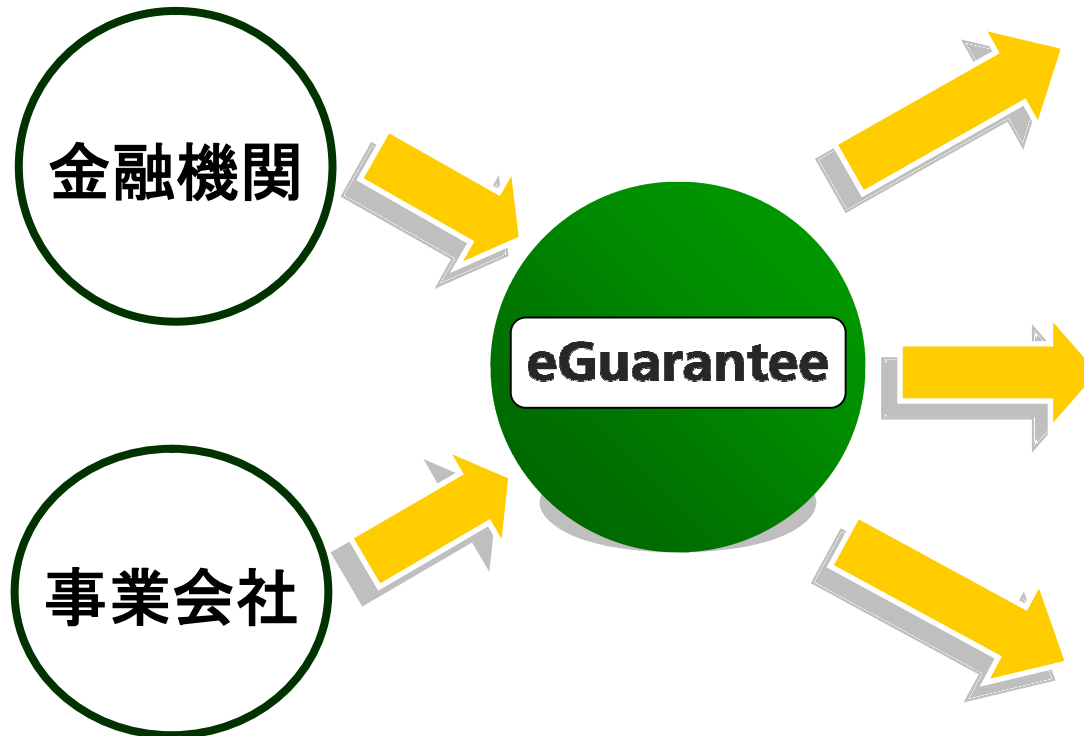
リスクポートフォリオの優良化、適正料率の設定が可能に

問合せ数、顧客数の増加を図ることで、当社独自情報の収集に努めつつ、データベースの拡充と情報分析手法の高度化により、更なる審査力の向上に継続して取り組みます。

リスク移転手法の多様化

eGuarantee

多様なリスクの引受け



リスク移転手法の多様化

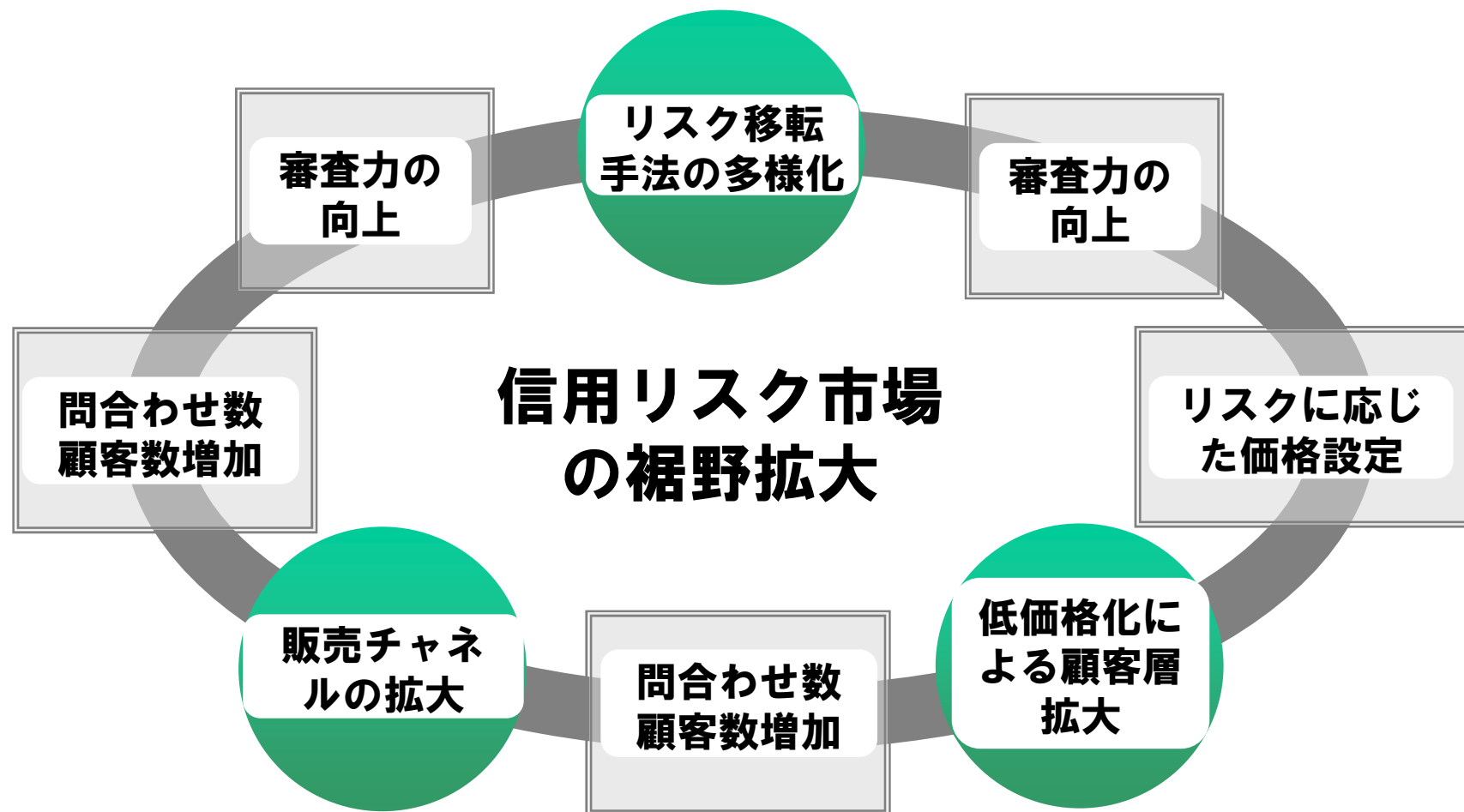
信用リスクに投資する
ファンドを設立

従来のリスク移転先
金融機関、リース会社
ファクタリング会社等

ストップロス契約
によるリスクヘッジ
(高額免責再保証委託契約)

ファンドの組成により、一般企業を含めた様々な企業の投資機会を創出するとともに、ストップロス契約の締結を行うなど、リスク移転手法の多様化、収益機会の拡大、効率的なリスク移転を図ってまいります。

中長期的な方向性



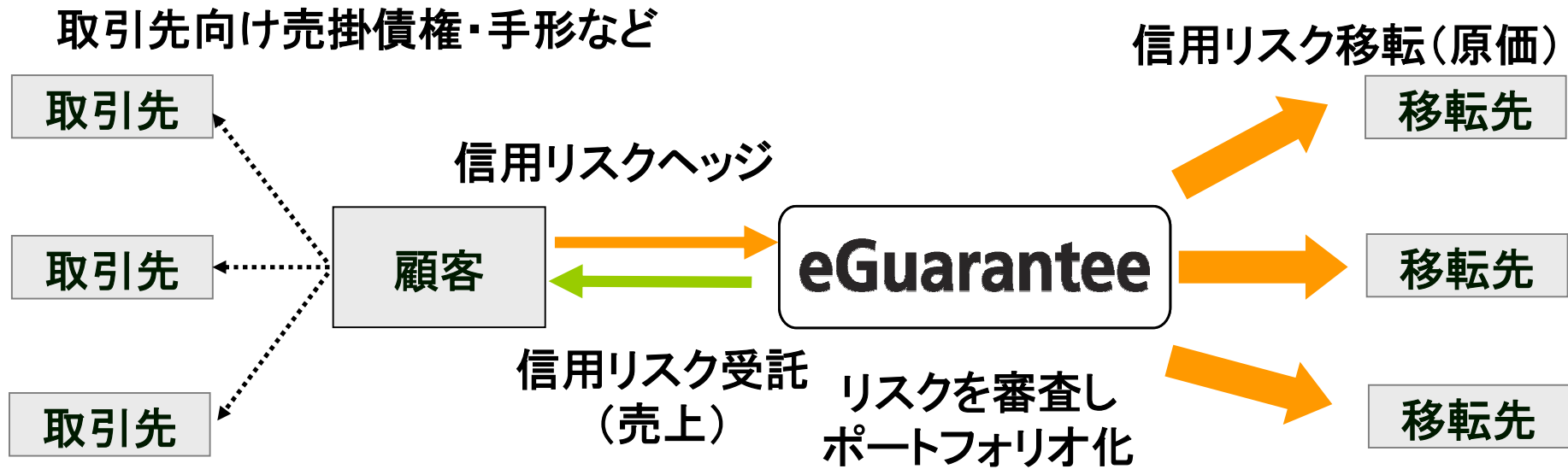
関連する一連の取り組みを通じた保証規模の拡大と、保証規模拡大による各取り組みの更なる強化を目指します。

1. 平成22年3月期 第2四半期業績概要

2. 平成22年3月期の重点的取り組み事項及び進捗状況

3. 参考資料

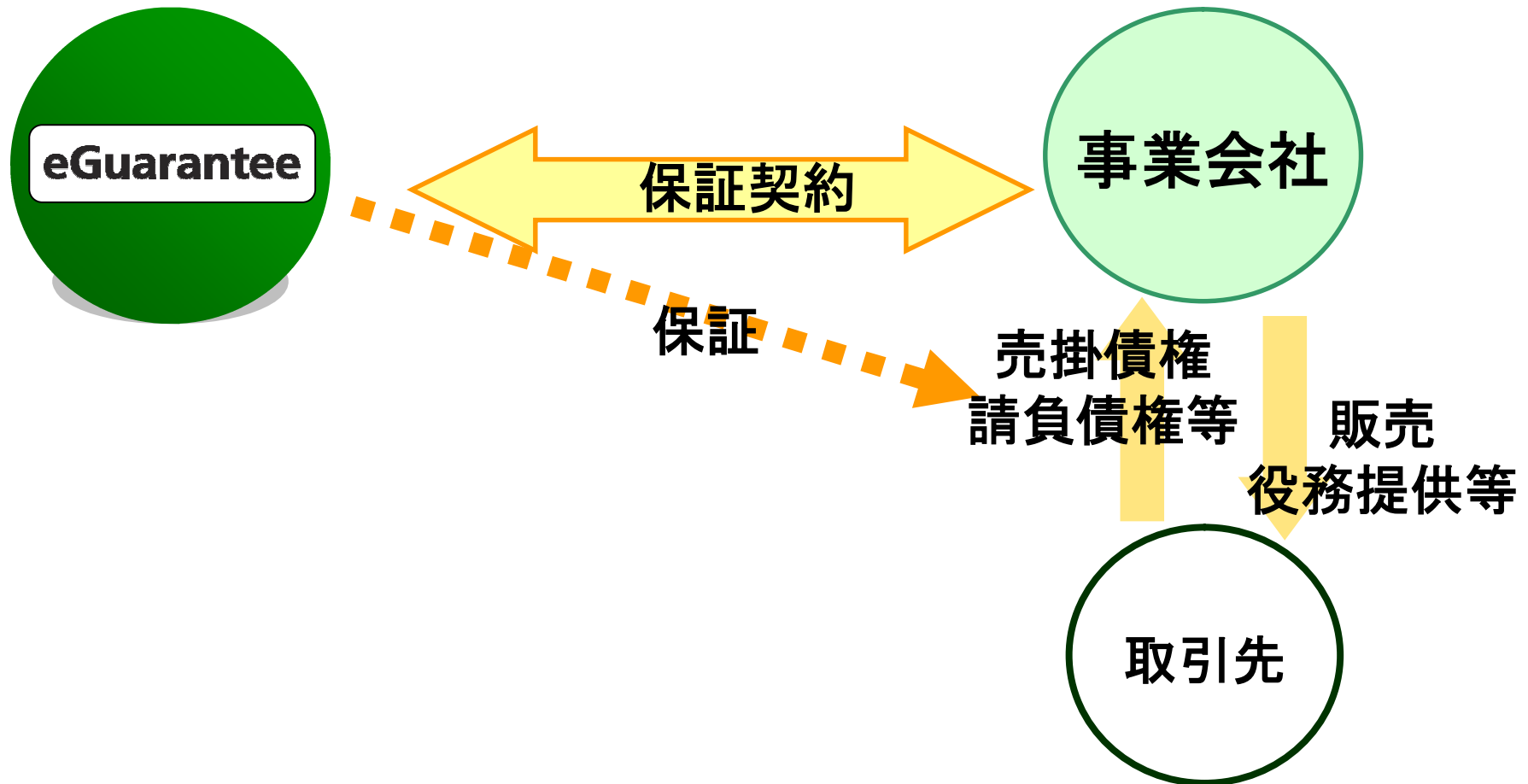
ビジネスモデル: 信用リスク受託・流動化



信用リスクを当社が受託
(事業法人・金融機関)

信用リスクを流動化
(金融機関・ファンドなど)

eGuarantee 当社の事業：事業法人向け保証サービス

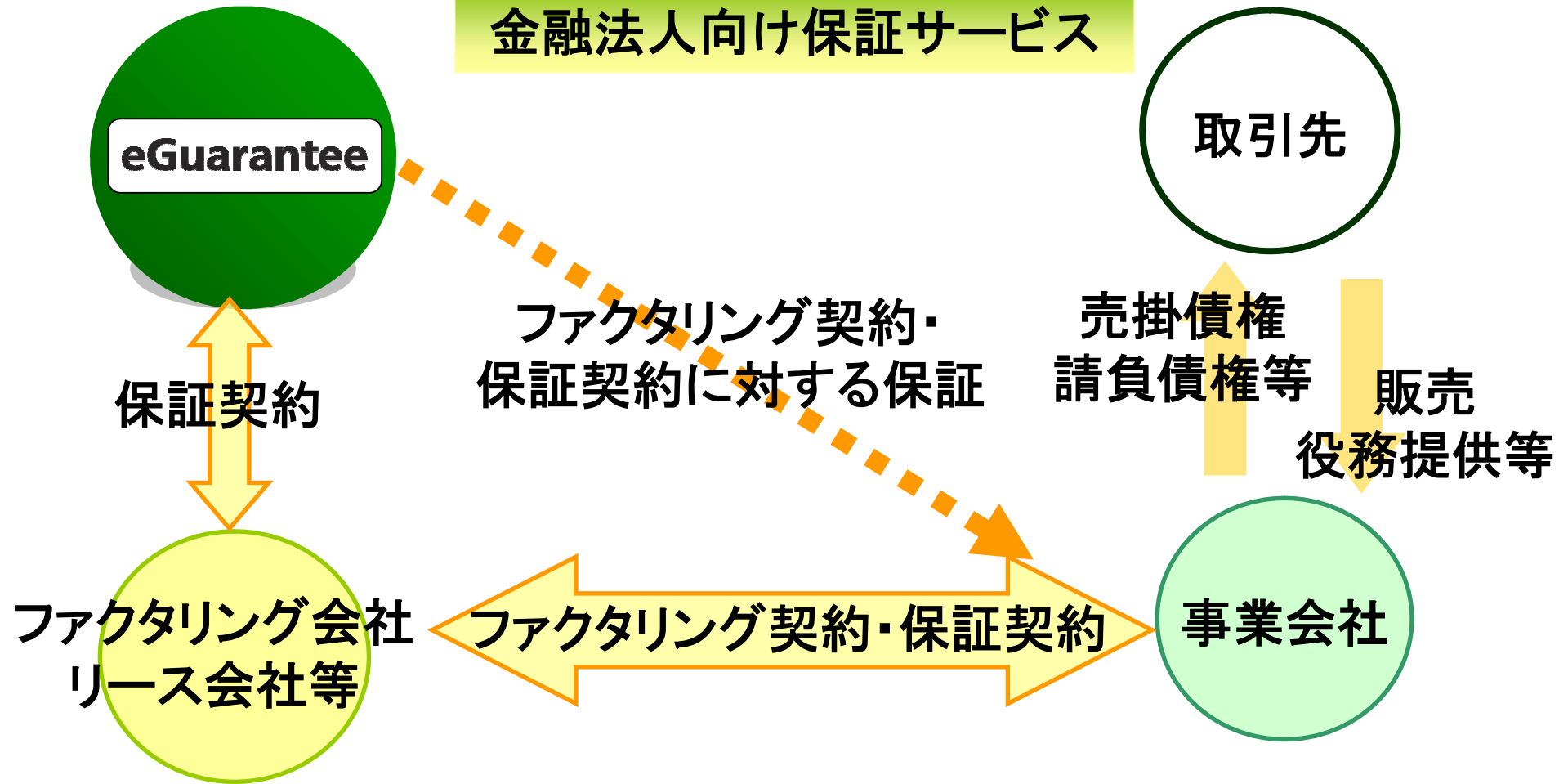


当社のサービスを利用することで、比較的高額な信用リスク・多様な信用リスクのヘッジが可能になります。

当社の事業：保証債務保証サービス

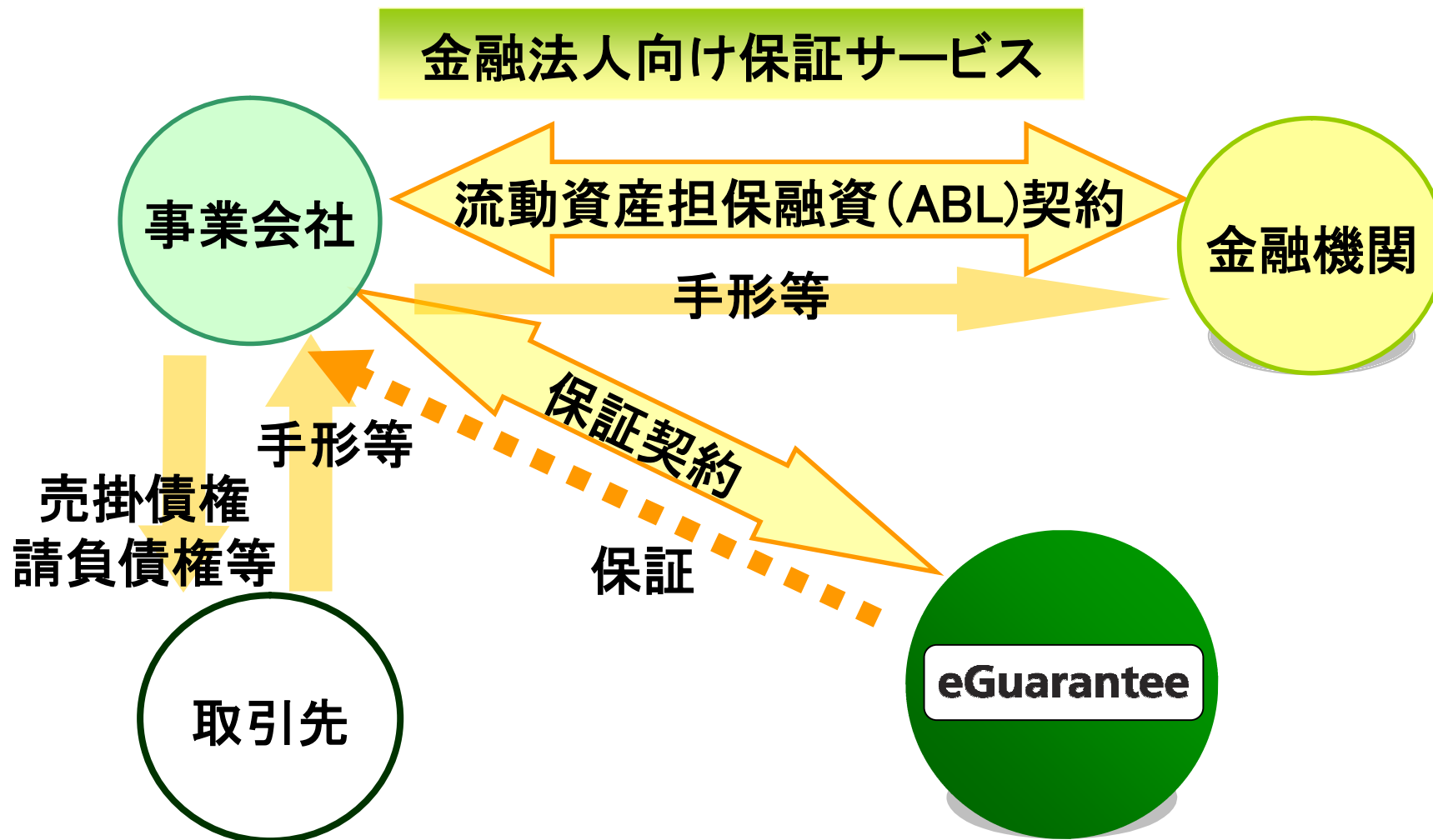
eGuarantee

金融法人向け保証サービス



当社のサービスによりファクタリング会社・リース会社等は、当社の信用リスク分析を通じて企業の信用リスク引受が可能となります。

当社の事業：手形債権保証サービス



当社のサービスにより手形等に信用力を付与することで、
事業会社等は流動資産担保融資契約を締結可能となります。

当社の新サービス:手形買取保証サービス

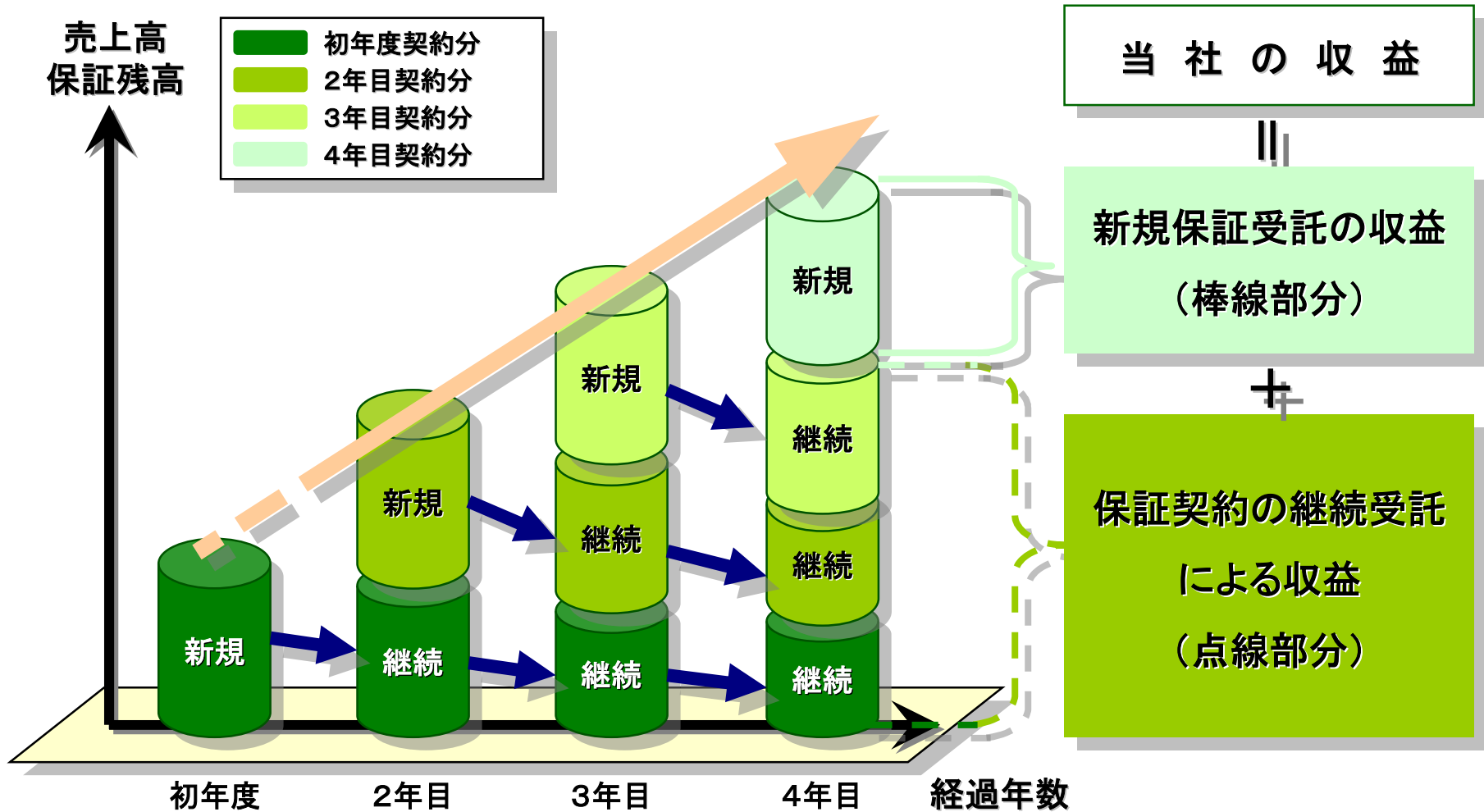


資金繰りニーズに応え、保証対象先となる取引先が振出す手形を、当社提携先金融機関で、いつでも、一定の金利で割引可能なサービスを提供します。

当社の収益構造

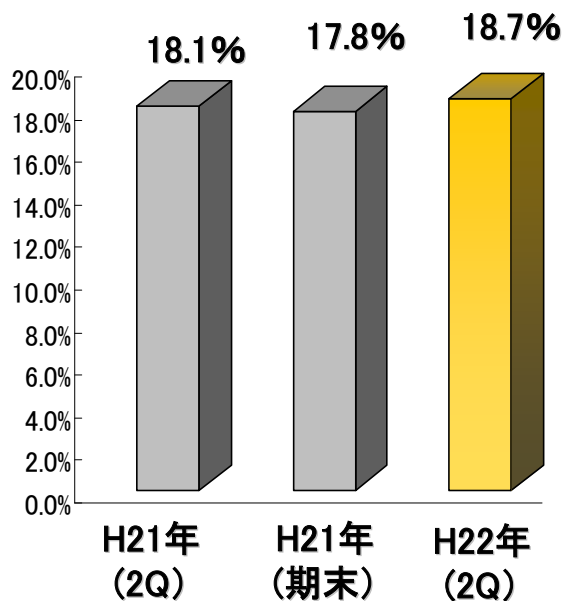
eGuarantee

当社の収益構造は、毎年の保証受託契約の更改率(継続率)が高く、
下方硬直性が高いストック型ビジネスモデル

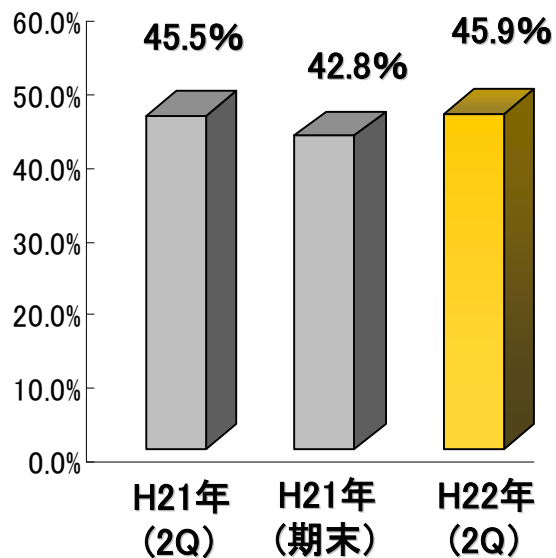


主な経営指標

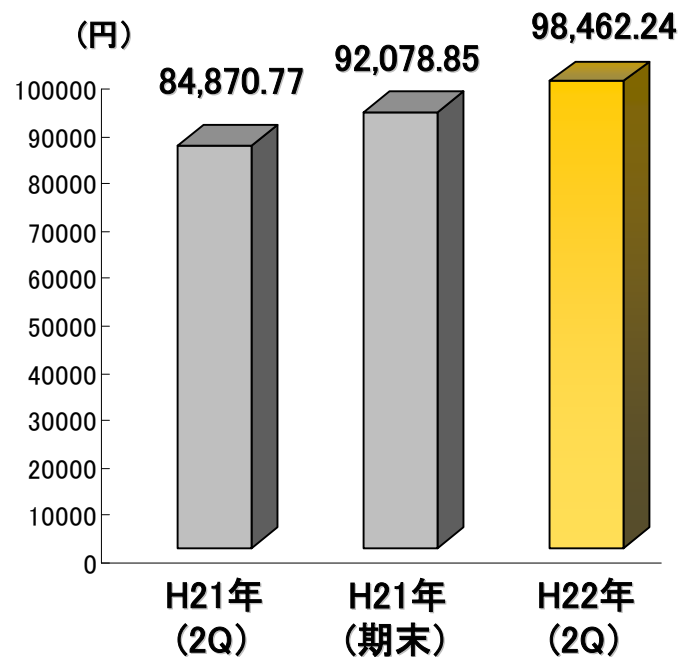
①売上高経常利益率



②自己資本比率

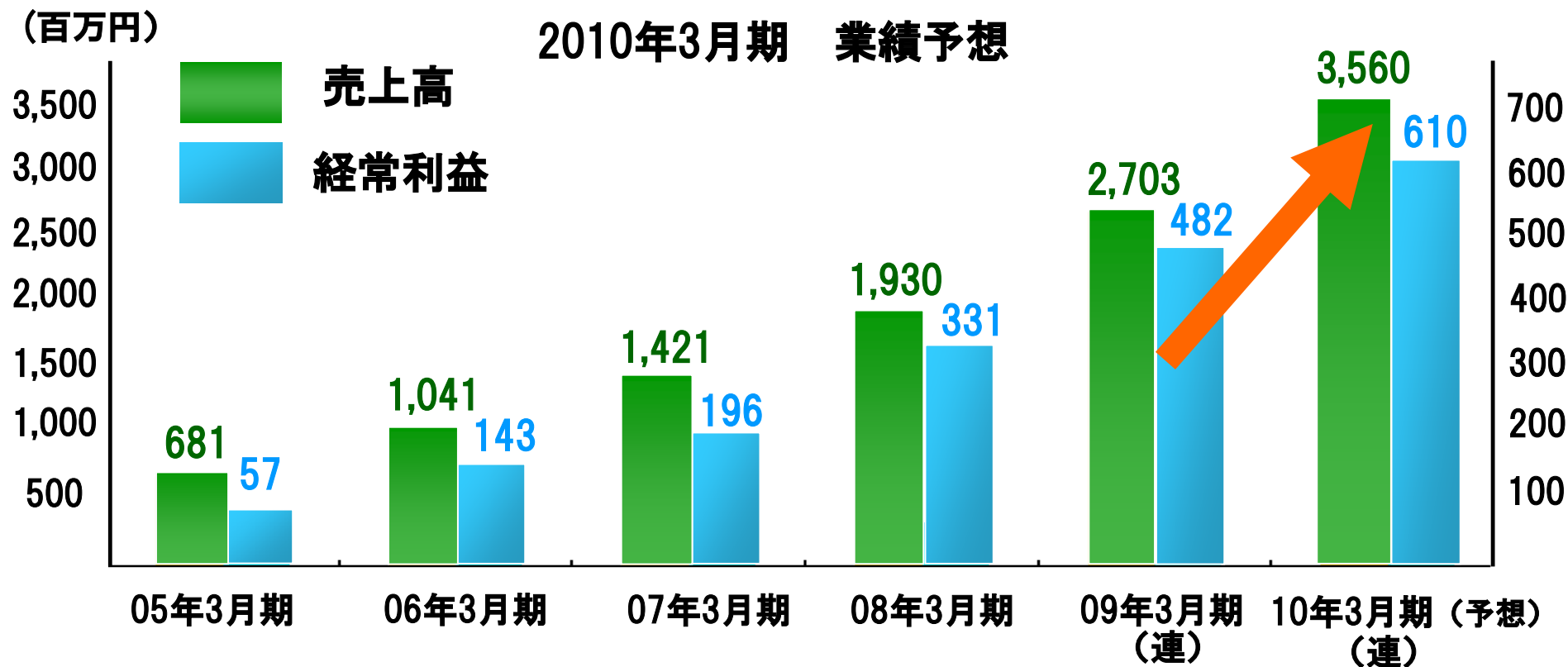


③一株当たり純資産



- ①販管費の売上高対比が低下したことにより、売上高経常利益率は上昇いたしました。
- ②利益剰余金の積み増しによる株主資本の増加、および総資産の減少により自己資本比率は上昇いたしました。
- ③利益剰余金の積み増しにより、一株当たり純資産は増加いたしました。

業績の推移

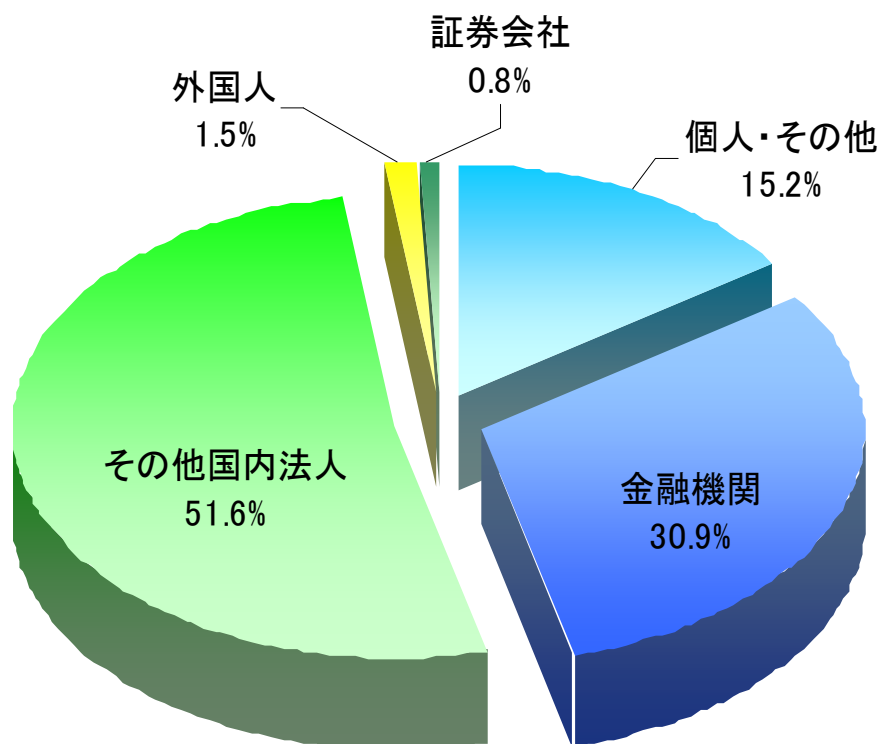


eGuarantee 株主状況 (2009年9月30日現在)

＜上位10位の株主状況＞

| | 氏名又は名称 | 持株数 | 持株比率 |
|----|-----------------------|-------|--------|
| 1 | 伊藤忠商事 | 6,398 | 31.67% |
| 2 | 帝国データバンク | 1,794 | 8.88% |
| 3 | 日本マスタートラスト信託銀行(信託口) | 1,730 | 8.56% |
| 4 | エヌ・ティ・ティ・データ | 1,200 | 5.94% |
| 5 | ジェーシービー | 1,000 | 4.95% |
| 6 | 日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口) | 995 | 4.92% |
| 7 | あいおい損害保険 | 800 | 3.96% |
| 8 | 損害保険ジャパン | 784 | 3.88% |
| 9 | 日本興亜損害保険 | 670 | 3.31% |
| 10 | 三井住友海上火災保険 | 500 | 2.47% |

＜株主の分布状況＞



IRに関するお問合せ

イー・ギャランティ株式会社 経営企画室

住 所

東京都渋谷区恵比寿4-20-3

電 話

03-5447-3572

F A X

03-5447-3580

E - m a i l

ir@eguarantee.co.jp